

分科会討議日程

第 6 分科会 「 図工・美術 」

共同研究者氏名(所属)	大島 賢一 (信州大学教育学部)
分科会役員氏名(学校名)	三澤 理彦 (安曇野・穂高北小学校) 長岡 香里 (佐久・野沢中学校) 川口 海斗 (諏訪・富士見中学校)

11月4日(土)

時間割	レポート題名	学校(支部)	氏名
討議 I 13:00～ 15:00	討議の柱:身近にある生活やデザインを生かし、生徒が自ら発見・探求することができる支援や題材設定のあり方とは。		
	1	課題提起:	穂高北小学校(安曇野) 三澤 理彦
	2	身近な生活から題材発掘 生徒が自ら探求する教育現場の具現化	上田千曲高校(上小) 臼井 亮
	3	心と心を繋ぐ美術の役割 ～ユニバーサルデザインの制作を通して学んだこと～	豊科北中学校(安曇野) 長尾 小百合
	4		
討議 II 15:10～ 17:00	討議の柱:様々な実践を通して、図工・美術教育における日々の工夫や悩みの共有を図り、これからの県教研図工・美術分科会のあり方を考える。		
	5	先生方が持ち寄ってくださった日々の実践から、日頃の指導の工夫や悩みを共有する	野沢中学校(佐久) 富士見中学校(諏訪) 長岡 香里 川口 海斗
	6	今後、より県教研を盛り上げていく工夫や魅力ある分科会とするための意見交換	穂高北小学校(安曇野) 三澤 理彦
	7		
討議 III 17:00～ 17:30	まとめ		

参加者への 連絡事項	レポートの形式ではなくても、先生方の様々な実践や作品などを持ち寄っていただいて、話題にしていけたらと思います。もちろん「このような題材を進めていくにはどのように指導したら。」や「この作品をどう評価していけばよいのか。」など、日頃の指導で悩んでいることを相談する機会にしていいただいても結構です。
---------------	---

課題提起

1 図工・美術教育における課題とは

図画工作や美術を指導していると「ぼく、絵が下手だから図工は嫌いだ」「私は立体作品を作るのは好きだけど、絵画作品は色をうまく塗れなくて苦手です。」といった声をよく耳にする。学校教育の現場や保護者を含めた社会から求められている「図画工作・美術」の価値は「作品をうまく完成させること」に主軸が置かれていると未だに感じることがある。「上手い」「下手」という評価を子どもたち自身が常に意識し、格付けしてしまう。学校現場では特に「図画工作の指導・評価に自信が持てない」という教師側の思いが「より写實的・より洗練された作品」を生み出すことが「指導力」としての価値であるように感じてしまうこともある。これらはコンクールなどへの参加がその傾向をさらに助長し、教科として目指すべき目標にさえなってしまう現実もある。結果的には、児童・生徒の表現活動（特に描写）に対する苦手意識を形成してしまい、教科そのものに対する意識も嫌いにさせてしまっている可能性がある。

「図画工作では、児童一人ひとりの思いや考えが尊重されるような学習空間、それらが否定されたりつぶされたりすることのないような温かい学習空間でないと、目指すべき児童の本当の表現は、生まれてこないであろう。」（※1より）とは鉤治雄の言葉である。私たちは日々授業を進める中、授業時間数までに作品を完成させなくてはならない、自分の好みに左右されないよう子どもたちに課題を与える指導方法、基本的な用具や材料の管理や準備、造形遊びなど決められたゴールが見いだしづらい活動の指導のあり方や評価、どの児童も夢中になって取り組める題材など、多くの悩みや困難さにぶつかってきている。そしてそれらを乗り越えてきた実践もある。今一度、県教研の場で「自分の悩み」や「自身の実践」を持ち寄って、子どもたちの造形活動について語ってみる意味があるのではないか。

2 課題提起

はじめに、「身近にある生活やデザインを生かし、生徒が自ら発見・探求することができる支援や題材設定のあり方とは。」を討議の柱として、2本のレポートを紹介していただく。自らの周囲から優れた造形やデザインを見だし、自ら探究していく生徒の様子を紹介していただきながら、題材の優れた可能性、授業展開・環境設定の工夫などを学んでいきたい。

次に「様々な実践を通して、図工・美術教育における日々の工夫や悩みの共有を図り、これからの県教研図工・美術分科会のあり方を考える。」を討議の柱として、参加者の皆様が持ち寄ってくださった実践などを鑑賞したり、お話を伺ったりする時間を設けていく。もちろん、成功実践だけでなく、「指導や評価に対する悩み」を相談し、共有する時間になってもよい。多くの仲間と共に、子どもたちの姿や作品で語り合う時間としたい。

3 参考資料

「図工・美術科教育における現実的な課題 体系的な教科カリキュラム構築の意義」降籟 孝 著
（※1）「学校現場における図画工作教育の課題」降籟 孝 著（山形大学地域教育文化学部）

支部名 安曇野支部
職場名 安曇野市立豊科北中学校
氏名 長尾 小百合

「心と心を繋ぐ美術の役割～ユニバーサルデザインの制作を通して学んだこと」

【美術科研究テーマ】

生徒が、作品との出会いから各々に感性を高め、相互の表現のよさを認め合いながら、思いやねがいを制作に生かしていけるようにするための支援のあり方

1 題材名 「心と心を繋ぐみんなの便利グッズ～ユニバーサルデザイン～」

A表現 (1) イ (ウ) (2)、B鑑賞 (1) ア (イ) イ (ア)

2 題材について

(1) 題材設定の理由

本学級の生徒は、1学年時に、2学年が考案した「おやき」のパッケージデザインを制作し、届けたい相手の気持ちやニーズ、年代などを踏まえながら、中身の魅力やおやきの考案者の気持ちを伝えるデザインの意味を意識し構想した。そこでは、制作を通して、伝達の効果と楽しさなどとの調和を理解し、美術が日常生活と関わることを実感した。

本題材は、パッケージデザインで学習した社会の中で働く美術の力についての見方や感じ方を一層広げ、様々な人にとって使いやすいデザイン「ユニバーサルデザイン」について考え、発想し構想する題材である。身の回りの出来事や身近な相手だけでなく、社会性や客観性を一層意識して主題を生み出し、発想や構想をすることができるように指導する。

このユニバーサルデザインを取り入れた表現の活動では、身近な人々や社会に目を向けさせ、見る人や使う人の立場や気持ちを尊重して表現したり、年齢や性別、言語、能力など人の様々な特性や違いを考慮し、全ての人に対して分かりやすさや美しさなどを考えて表現する。単に知識として理解するだけでなく、発想や構想の段階で「自分の問題」としてとらえて表現するということを授業の中で大切にしたい。

本題材を通して生徒が「社会の中で生きる美術の力」を感じ、自分の身の回りにたくさんのデザインがあることに気付き、デザインという形で様々な状況に対応しようとする柔軟性がこれからの社会に必要なようになってくることに気付かせたい。そのために、道徳と関連づけ、実際にユニバーサルデザインに携わる人の話を聞き、生活や社会を豊かにすることを単に知識として理解するだけでなく、発想や構想の段階で「自分の問題」としてとらえて表現することを大切に授業を展開していく。

(2) 授業のねらい

- ・身近な人々や社会に目を向け、見る人や使う人の立場や気持ちを尊重して表現することを通して、発想や構想する能力や創造的な技能を育てる。
- ・伝えたい内容を年齢や性別、言語、能力など人の様々な特性や違いを考慮し、全ての人に対して分かりやすさや美しさなどを考えて表現することを通して、発想や構想する能力や創造的な技能を育てる。
- ・ユニバーサルデザイン7原則を意識して発想や構想し、それを基に描いたりつくったりすることを通して、使用する人の気持ちや他者の立場に立った表現の意義を理解させる。
- ・表現の活動では、単に作品制作に終始するだけでなく、学習のねらいを明確にし、特に発想や構想

の過程を大切に。生徒が他者を意識して全ての人を尊重した表現の過程を通して、他者を思いやる気持ちやユニバーサルデザインの意義やねらいを実感的に理解していくことを大切にする。



3. 題材の評価規準

A 〈知識および技能〉	B 〈思考力・判断力・表現力〉	C 〈主体的に学習に取り組む態度〉
<p>① 知識形や色彩、材料などの性質、それらが感情にもたらす効果や造形的な特徴を基に全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>② 技能材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、制作の順番などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表している。</p>	<p>① 発想ユニバーサルデザインの7原則や使う人、場所、社会とのかかわりなどを基に、機能と美しさとの調和や機知やユーモアなどから主題を生み出し、人への優しさや共生と形や色彩の美しさなどとの調和を総合的に考え、表現する構想を練っている。</p> <p>② 鑑賞使う目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と創造的な工夫や生活や社会を豊にする美術の働きなどについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>① 態表美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 態鑑美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に作品や美術の働きなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

4. 展開の概要と評価計画

段階	時間	学習内容	指導・留意点	評価の観点
中夏の期 宿休 題暇	1	身近にある便利グッズを調べる	・100円ショップや自宅で、「便利だな」と思うグッズを探し、どんな点が工夫されているのか、ワークシートに記入する。	

<p>授業の前段階（概念理解）</p>	<p>2 （道徳）</p>	<p>1 社会福祉協議会の方の話を聞き、福祉の立場でユニバーサルデザインの概要を知る。</p> <p>2 ユニバーサルデザインに携わる企業の開発担当者*¹より、アイデアを具現化する方法を聞く。 *1：株式会社日邦バルブ ユニバーサルデザインの不棟栓開発者、松本ユニバーサルデザイン研究会 副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の立場、企業の立場からユニバーサルデザインについて話を聞くことで、社会に求められるデザインの魅力や、デザインという形で様々な状況に対応しようとする柔軟性に気付くことができるようにする。 ◇生徒に気付かせたいポイント ①「ユニバーサルデザインの7原則」について理解し、バリアフリーとの違い ②心を相手に寄り沿わせて多様性を認め、バリアを解消することではなく、はじめからバリアを生まない方法を考えることがユニバーサルデザインであること。 ③様々な立場の人々の身になって考えることで特定の人だけでなく多くの人の役に立つデザインにつながること。 ④身近にあって、見過ごしているものの中にもだれもが使えるように考えられたデザインがあること。 	
<p>発想・構想</p>	<p>2</p>	<p>1 班でユニバーサルデザインのコップについて考え、マケットを作ってイメージを膨らませる。</p> <p>2 100円ショップに行き、本制作時に使う文房具を選ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなにとって持ちやすく、落としにくいコップ」をテーマに、班で意見を出し合い、企画書にイメージを記入する。 ・企画書をもとに紙コップに粘土を貼り付け、班で1つ制作する。 ・本制作時には、本時と同じように粘土でマケットを作ることを伝え、本制作へのイメージを高める。 ・本時で選ぶ文房具は、マケットの芯部分になるため、装飾にとらわれずに選ぶよう伝える。 ・100円ショップに行く理由を伝える。 →私たちにとって身近で、様々な商品に触れることができる。 アイデアグッズが豊富にあり、商品の入れ替えが早く、改良されている。 様々なアイデアが、今後の本制作の着想にもつながる。 ・完成された商品であっても、よりみんなにとって使いやすいデザインにするために改良したい文房具を選ぶよう伝える。 ・文房具を選んだ後は、100円ショップにある様々な商品を鑑賞し、発想・構想の基にするよう勧める。 	<p>A① B① C①</p>

制作	5	<p>3 企画書に主旨やアイデアスケッチを描き、色鉛筆で着色する。</p> <p>4 粘土で芯（文房具）に肉付けをする。</p> <p>5 「企画会議」を開き、班で意見を交わし合い、改善する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨を明確にして企画書を記入するように伝える。 ・特に形にこだわり、色は「使いやすさ」を考えたり、色覚に障害がある人にも配慮したりする場合の補助として考えるように伝える。 ・企画書記入と制作を同時に行ってもよいことを伝える。 ・企画会議前後も、よりよい制作のために班の人に意見を積極的に求め、「みんなにとって使いやすいデザイン」のために様々な角度から作品を見るように伝える。 ・企画会議では、主旨やねらいを明確にしてメンバーに発表、相談するよう促す。 	<p>A②</p> <p>B②</p>
鑑賞	6	<p>6 「商品発表会」を開き、一人1分間で商品について説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞前の準備として、作品とカードと一緒に机上に置くように伝える。 ・他の生徒の作品から、作品の主題、意図、表現の工夫などを感じ取るよう生徒の言葉を繋げる。 	<p>A②</p> <p>B②</p> <p>C②</p>

5. 授業の実際

①主眼

前時までにユニバーサルデザインの文房具の構想をし、企画書制作やマケット（模型）制作を進める生徒が、友だちとアドバイスし合うことで、様々な角度から作品を見つめ、改善することができる。

②指導事項

A表現（1）イ（ア） 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。

A表現（2）ア（ア） 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

A表現（2）ア（イ） 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。

③本時の位置（全5時中第3時）

前時：ユニバーサルデザインの文房具の構想をする。

次時：友だちのアドバイスを基に、企画書制作やマケット制作を進め、完成に近づける。

④指導上の留意点

- ・デザインの理念に沿って制作することができるように、制作の導入でユニバーサルデザインの7原則を確認する。
- ・友だちの意見を参考にしながら、社会性や客観性を意識して主題を生み出すようにする。
- ・目的や機能がイメージできない生徒に対しては、より多くの人々が共通に感じる感覚や社会とのかかわりなどを確認したり、班の友だちからのアドバイスを参考にしたりするように声をかける。

⑤準備品

- ・教師…示範用の作品例、前時のワークシート（企画書）、書画カメラ、樹脂粘土、芯材となる文房具、色鉛筆、定規、分度器、コンパス
- ・生徒…作品、学習カード、タブレット、筆記用具

⑥本時の展開

	学習活動と生徒の姿	指導・評価	T
導入	<p>1. ユニバーサルデザインの7原則について確認する。</p> <p>2. 企画書の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・握りやすさを意識して、左効きの人も使いやすいデザインを表そう。 ・カーブを付けたことで握りやすくなったな。 ・前回から改良を加え、取っ手のないハサミも考えてみよう。 ・お年寄りも小さな子どもも使いやすいデザインになっているかな？ ・ユニバーサルデザインの7原則を意識したデザインになっているかな？ ・班の人の意見を聞いてみよう。 	<p>◇（板書の）「（ ）にはどんな言葉が入るかな？」</p> <p>◇「自分が企画したデザインはユニバーサルデザインに近づいているかな？」「今日の制作でよりよいものにしていこう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書画カメラに、生徒の企画書を写し、改良したい点などを問いかける。 <p>◇制作が早く進んでいる生徒も、もうユニバーサルデザインの理念から外れていないか確認するように助言する。</p>	5
	<p>[学習課題]：心を繋ぐデザインになっているか、企画会議をして制作につなげよう。</p>		15
	<p>3. 1人1分ずつ製品について説明をし、意見や感想を伝えあう。〈企画会議〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は長時間シャープペンを使うと肩こりになるから、太さに改善を加え、握りやすいデザインにしたよ。班の人の反応はどうか？ ・Aさんのデザインは形は良いけれど、指が短い人や子どもには使いづらいな。押すタイプにしたらどうだろう？ ・Bさんのデザインは様々な人の立場に立てているね。私もアイデアを取り入れてみよう。 ・Cさんのデザインは使い方やボタンが分かりやすいように色を加えたら良さそうだな。 	<p>◇企画会議は、製品（作品）をより社会的に客観的に評価してもらうチャンスであることを伝え、意識させる。</p> <p>◇発表者は、前時までの制作で困った点、意見を求めたい点も積極的に伝え、改善に繋げるよう指示する。</p> <p>◇友だちから出た意見や助言をワークシートに記入し、制作を進める際の参考にするよう指示する。</p> <p>◇友だちが発表する際には、自分のこととして捉え、改善につながるような発言ができるように伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡視して、生徒同士の関わりを確認する。 	

制作	<p>4. 友だちの意見をもとに作品を確認し、改良を加え、製品（作品）をブラッシュアップしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の企画で良いと思ったけど、友だちの意見を聞いたらユニバーサルデザインから離れていたな、さらに使いやすいデザインに改良しよう。 ・様々な人の立場に立ったデザインにはあと少しだな。Aさんの意見を参考に制作しよう。 ・まずは握りやすく、使いやすいデザインの形を完成させ、分かりやすいデザインのために色を付けてみよう。 <p>5. 片付け、学習カード記入</p>	<p>◇「友だちのアドバイスや気付きも参考にしながら、作品をもう一度見返そう。どんな改良ができるかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートのメモをもとに、客観的な目で作品を見返し、作品をブラッシュアップするように指示する。 ・巡視して、生徒一人ひとりの進行具合を把握し、企画会議で出たアドバイスが制作につながっているか確認する。 ・書画カメラ等で、改良を加えた生徒作品を紹介し、良さを共有しあう。 <p>【複線的指導と手立て】 班の人からアドバイスをもらっても改善方法が分からない生徒に対し、再度班の人に改善方法のアドバイスをもらうよう繋げる。</p> <p>◇学習カードに記入させ、授業を振り返る。</p>	25
まとめ	<p>6. 友だちからのアドバイスを基に制作を進めることができたか聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちのアドバイスで企画書に記入ができたよ。 ・次への見通しを立てることができたよ。 	<p>◇「今日はどんなことに気付けたかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言を受け止め、次の制作に活かせるようなことを共有し合う。 <p>【評価の観点】 企画会議で班の人からアドバイスをもらうなどの活動を通して、社会的、客観的な目で自分の製品（作品）を確認し、完成に向けてよりブラッシュアップすることができたか。</p>	5

6. 授業を通して感じた生徒の姿

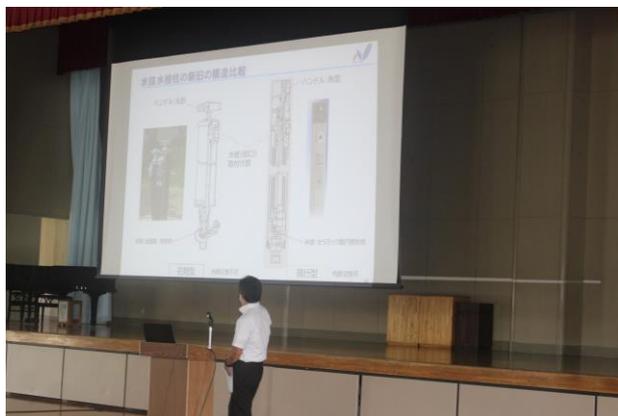
昨年度、病気のために足を切断しなければならない生徒がいた。生徒は義足を付け、車椅子での生活となったが、登校し、皆と同じように授業を受け、校外学習に行きたいと強く望んでいた。ただ、生徒にぶつかってしまうと、二度と歩行ができなくなる可能性がある。校長から全校に生徒の状況を伝え、様々な状況の人でも安心して生活できるよう配慮することを全校で確認した。他にも、耳の聞こえに困難さをもつ生徒など様々な生徒が本校で生活している。どのような状況の生徒であっても、不平等さや負い目を感じることなく、多様性を受け入れていく必要があり、そのような生徒の存在こそが、私たちに気づきを与えてくれる。

美術では、皆にとって使いやすい「まち」や「もの」をつくろうというユニバーサルデザインのもと、身近にある「便利グッズ」にヒントを得、より使いやすく、より手に取りたくなるようなデザインを考えようと題材を設定した。

多様性や人権を意識しながら生活している生徒がユニバーサルデザインを題材に制作に取り組んだ

際、既に発想や着想の段階で、概念についてよく理解し、「皆にとって使いやすい」という意識をもつことができていた。道徳など他の教科を通して学んだことのほか、普段の生活の中で感じたことを美術で目に見える形にして表したことで、本当の意味での「使いやすさ」とはなにか、追求する姿があった。

美術の授業を通して学んだことは、次の年の総合的な学習の時間にも取り入れられ、市内にあるユニバーサルデザインを調査する活動へと繋がっていった。美術で学んだことがさらに他の教科や分野の学びへと繋がり、より深く多様性や人権について考えるきっかけになった。



◀東邦バルブ 開発担当者の講演会

ユニバーサルデザインの不凍栓開発に携わった立場から、開発の際に配慮したこと、苦労したことなどをお話しいただいた。

道徳の時間に2学年全体で聴講した。



▲ユニバーサルデザインのボールペンと企画書
この生徒は、握りやすく、キャップが取りやすいペンを開発した。



▲「企画会議」の様子
班のメンバーで作品を見合っ、遣い心地などを確かめあい、意見を参考にしながらブラッシュアップした。

7. 授業の感想、改善点等

○授業の感想

- ・着色をせずに紙コップのマケットを制作したことで、物の形に特化して制作ができた。
- ・夏休みの課題で「便利グッズ」をあらかじめ調べたことにより、UDについて考える素地ができた。
- ・100円ショップで様々な便利グッズに触れたことで、世の中には様々な人の立場に立って作られた道具があることを理解することができた。
- ・友だちに意見を求め、改良を重ねたことで、使用する人の気持ちや他者の立場に立った表現の意義を理解しながら制作していた。
- ・マケットよりも企画書の制作に重点を置いたことにより、イメージが伝えやすくなった。

○次に繋げていくための改善点

- ・ペンを選択する生徒が多く、似通ってしまうものがあった。

- ・友だちの意見を反映させすぎてしまうがあまり、自分で考えた当初のアイデアを大幅に変えてしまい、独自のアイデアという面が欠けてしまった。
- ・使いやすさと装飾とのバランスを考えていきたい。

8. 今後の展開

昨年度よりユニバーサルデザインについて考える題材を取り入れた。

ユニバーサルデザインを把握した上で制作を進めるため、安曇野市人権共生課、安曇野市社会福祉協議会、松本ユニバーサルデザイン研究会のご協力を得て、ユニバーサルデザインについて解説いただき、ユニバーサルデザインが施された文房具に触れた。

生徒が制作した作品は、企画書と共に、安曇野市社会福祉協議会の文化祭「福祉ひろば」にて発表したことで、様々な人の目に触れ感想をいただいたことにより、作品に対する課題も発見することができた。

今後もデザインや福祉に携わる方からのお話を聞き、目的や概念を踏まえた上で制作をすすめたい。また、発表の機会を得て、社会に生きるデザインについて熟考していきたい。



◀安曇野市社協文化祭での展示の様子

